

No. 1 4	提 案 名：外国人観光客への宇都宮の魅力再発信—留学生と日本人の協力で生み出す観光振興	
	提案団体名：宇都宮大学 行政学研究室 観光協力チーム	
	所 属：宇都宮大学 地域デザイン科学部・地域創生科学部	
	代 表 者：山本夢羽	指導教員：中村祐司
メンバー	翟振羽、劉明君	

○ 提案の要旨

本提案では、宇都宮市を訪れる外国人観光客を増やすことを目的とし、以下の事業を提案する。

- 外国人観光客が持つ「日本人と関わりたい」「日本人と交流したい」「日本と他の国の違いを知りたい」「日本人の生活習慣を知りたい」というニーズを満たす、外国人観光客と大学生の交流事業
- 大学の空き教室と新設の地域コミュニティ拠点などの既存施設の一部を活用して観光案内所として整備し、外国人観光客・日本人学生・留学生の交流の拠点とする
- 日本の多くの都道府県や観光都市は海外の SNS で観光を宣伝するアカウントを開設している。留学生が海外の SNS にて宇都宮市の観光情報を発信するアカウントを運用することで、より具体的で外国人観光客のニーズに合った宇都宮市の PR を行う。
- 留学生は語学力を活かし、外国人観光客と日本人との交流の橋として、両者間のコミュニケーションにおける問題を解決する
- 上記の内容を表すものとして、「MUFIS」というテーマを考案した。
M : Mix の頭文字、「融合」、人と人の平和な交流、共生社会を作る
U : Utsunomiya 宇都宮市
F : Foreign tourist 外国人観光客
I : International student 留学生
S : Japanese student 日本人学生

1. 提案の背景・目的

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、日本を訪れる外国人観光客の数は減少している。2022（令和4）年10月11日からの外国人の新規入国制限の見直しに基づき、パッケージツアーに限定する措置を解除し、個人旅行を解禁した。そこで、外国人観光客の個人旅行再開後の目的地に宇都宮を選んでもらえるような取組みが必要であると考えた。

宇都宮市内には、宇都宮大学、宇都宮共和大学、作新学院大学、宇都宮文星大学、帝京大学（宇都宮キャンパス）の5大学が所在しており、2022（令和4）年4月1日時点で572人の外国人留学生在籍している。この、外国人留学生在籍者を外国人観光客の増加に向けた方策に活かしていきたいと考えた。語学力に長けた外国人留学生在籍者の能力を活かして、宇都宮の魅力外国人に向けて発信することで、宇都宮市を訪れる外国人観光客を増やし、にぎわいを創出することが本提案の目的である。また、留学生と日本人、宇都宮市民との間で多文化理解を促進するとともに、宇都宮市内に所在する大学に所属する外国人留学生在籍者と日本人学生及び宇都宮市民の強みを発揮し、宇都宮の観光地の魅力を再発見、再発信していきたい。

独立行政法人日本学生支援機構が2021（令和3）年度外国人留学生在籍状況調査結果において発表しているところによると、2020（令和2）年5月1日時点で、日本には279,597人の留学生在籍者が

在籍しており、そのうちの51.7%が関東7県に事務局本部が所在する大学に在籍している。さらに、そのうち約70%の留学生が東京都に所在する大学に在籍している。このように、日本への外国人留学生の多くは東京都に集中しているという現状がある。また、宇都宮と東京は時間的な距離でもそう遠くないといえる。

本提案では、東京都をはじめとした首都圏の大学に在籍する外国人留学生の国内を目的地とした小旅行で、目的地を宇都宮にしてもらうことをも目指している。宇都宮から東京までは新幹線で約50分と、首都圏へのアクセスも良い。このような地理的条件が良いということからも、外国人観光客に訪れてもらうためのポテンシャルは高いと感じている。外国人観光客の増加を目指すとともに、宇都宮市内に所在する既存の施設を、外国人観光客と宇都宮市民及び外国人留学生と宇都宮市民のあいだにおける多文化交流や観光振興の拠点として活用することも目指す。

2. 提案の目標・課題「私たちから始めよう にぎわいアクション」との関連

宇都宮市ににぎわいをもたらそうと考えたときに、観光客の呼び込みは必須であると考えた。とくに、コロナ禍において減少傾向にある外国人観光客の数を増加に転じさせることは宇都宮市のにぎわい創出にむけて重要である。その実現に向けて、宇都宮市内の大学に在籍する留学生と日本人学生の力を活用して、外国人観光客を増やすとともに、多文化交流のきっかけとし、共生社会の構築も目指す。

3. 現状分析

3.1 宇都宮市内における学生の現状について

(1) 日本学生について

宇都宮市には多数の大学生がおり、市内の各大学においては国際交流活動も積極的に展開されている。特に、宇都宮大学の国際学科は留学生グループの中で知名度が高い。外国人が多くいる東京からの距離も近く、彼らの文化に触れる機会にも恵まれている。しかし、実際には政府や大学が主導し、外国人と面と向かって交流することができる活動は少ない。また、外国語専攻を開設する大学数も不足しており、英語や中国語などの外国語を習得する学生の数は多くない。

(2) 留学生について

宇都宮市内には、宇都宮短期大学、作新学院大学女子短期大学部、宇都宮文星短期大学の短期大学と、宇都宮大学、作新学院大学、帝京大学、文星芸術大学、宇都宮共和大学が所在している。これらの短期大学と大学には、合計27カ国から、572人の留学生が在籍している¹⁾。日本を留学先として選んだ学生は、ほとんどが日本語学習と日本文化に大きな関心を持っており、それ自体が日本の影響を大きく受け、日本文化を広め、母国と日本との交流の橋を築くのに積極的な役割を果たしてきた。宇都宮の風土文化と観光名所を留学生に伝えることができれば、宇都宮市の外国人観光客の誘致に大きな意味がある。

(3) 中国の留学生について

中国人留学生の数が日本への留学生の総数のうち最も多くを占めるのは、栃木県及び宇都宮市だけではない²⁾。ほとんどが東京や周辺地域の各県など関東地方の大学に進学している。宇都宮市各大学に在籍する中国人留学生の総数は378人で、総留学生数の66.08%を占める。またその範囲も広く、宇都宮市だけでなく栃木県内の各大学に分布している。中国人留学生は私費留学が主で、目的は生活、体験、観光を主とする。母国からの送金で生活する、富裕層を主としている。ここで指摘しておきたい、最も重要な中国人留学生の特徴の一つは、中国人同士の結びつきが強いことだ。東京や関東近郊の中国人留学生は基本的に中国のSNSを通して交流しており、情報の伝播速度が速く、伝播範囲も広い。また、中国人留学生はほとんど首都圏に集中している。市内の中国人留学生が首都圏に住む中国人を宇都宮に誘致すれば、観光地としての魅力発信の重要な一端を担うことになるだろう。

3.2 外国人に対する調査

表1 コロナ後の日本への旅行意欲についての調査

コロナ後の日本への旅行意欲についての調査（外国人に対して） （調査参加人数 49 人）（アンケート配布期限 7.7～9.10）	
	※（）内の数字は各選択肢の回答者数を示す
Q1. あなたの年齢は？	
A1. 18 歳以下（11）	
18 歳から 40 歳の間（35）	
40 歳以上（3）	
Q2. コロナ禍以前に旅行で日本に来たことがありますか？	
A2. はい（9）	
いいえ（40）	
Q3. 旅行再開後、日本を目的地として選びたいですか？	
A3. はい（36）	
いいえ（13）	
Q4. どのタイプの日本の都市が好きですか？	
A4. 東京、大阪などの大都市（16）	
独特な魅力を持っている地方都市（25）	
自然景観と田舎暮らしが魅力の郊外地（8）	
Q5. 中国の SNS で日本旅行の広報を見たことがありますか？	
A5. はい（32）	
いいえ（17）	
Q6. 東京、大阪などの有名な都市以外に、地方都市についてもっと知りたいですか？	
A6. はい（41）	
いいえ（8）	
Q7. 英語や簡単な日本語でコミュニケーションができますか？	
A7. 英語と日本語をマスターし、流暢にコミュニケーションもできます。（2）	
簡単な単語だけは把握済み、基礎的な交流ならできます（18）	
英語と日本語は全然話せません（29）	
Q8. 日本に旅行した時に、外国人にとって一番難しいことは何ですか？	
A8. 飲食習慣（2）	
社交ルール（9）	
外国語（35）	
交通費などの料金が安い（3）	
Q9. 言語支援を含む観光客サービスセンターを利用することを希望しますか？	
A9. はい（49）	
いいえ（0）	

Q10. 旅行中、同じ国から来た人の助けを喜んで受けますか？

A10. はい (47)
いいえ (2)

Q11. どんな目的で日本に旅行に来ましたか？（複数選択可）

A11. 日本の飲食文化 (27)
人文と自然観光 (41)
伝統文化と祭り (27)
日本製電器と文化製品 (19)
テーマパーク（ディズニーランドなど） (10)
日本人との交流体験 (31)

Q12. コロナ後の旅行は、どの部分を一番重視しますか？（複数選択可）

A12. 公共場所の人口密度 (39)
交通にかかる時間 (20)
予約キャンセルの手数料 (41)
公共場所のコロナ対策 (47)

表2 首都圏に住む外国人の栃木県と宇都宮市の観光ニーズに対する調査

首都圏に住む外国人の栃木県と宇都宮市の観光ニーズに対する調査

栃木県は首都圏の一部として、都心からわずか 100 キロの距離にあり、県庁がある宇都宮市は餃子、ジャズ、大谷石博物館で有名です。本調査の目的は首都圏に住む外国人の栃木県と宇都宮市に対する理解度を調査することです。以下、4つの質問にお答えください。

(調査人数東京在住中国人留学生 25人) (アンケート配布期限 7.7~9.10)

Q1. 公共交通、ショッピングモール、道端、看板などの公共場所で栃木県の情報を知りましたか？

A1. はい (6)
いいえ (8)
特に注意なし (11)

Q2. 栃木県に住んでいる友人や親戚から栃木県や宇都宮市についての情報を知りましたか。

A2. はい (15)
いいえ。(10)

Q3. 外国人は三日間無制限で新幹線を利用できる割引措置をご存知ですか？

A3. はい (7)
いいえ (18)

Q4. 短期旅行は宇都宮市を目的地にしたいですか？

A4. はい (3)
いいえ (22)

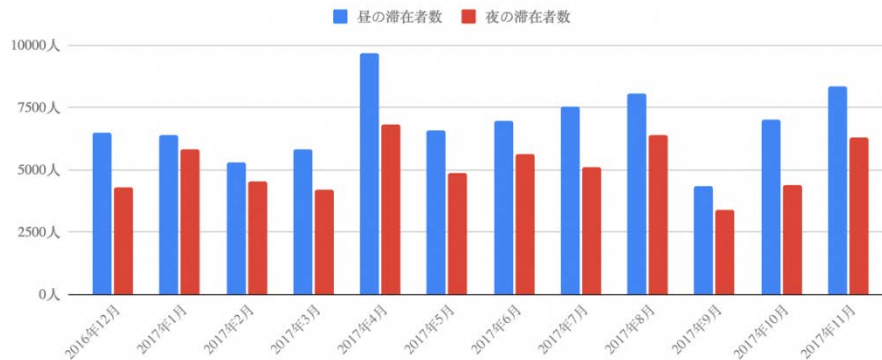
表1及び表2の調査結果によると、訪日外国人の年齢は若者、特にZ世代が主で、消費能力と教育水準が高いことがわかる。情報源は主にSNSなどのソーシャルソフトウェアの広告宣伝である。中国人を主とする若いグループは、日本に対する好感と日本旅行に対する情熱が高い。しか

し、日本語に不安があるせいで旅行を心から楽しめないというケースがある。言語サポートを充実させて、言語に障害がない状況で旅行をもっと楽しめるようにするための支援が必要だ。

調査の過程で、日本の各都道府県は中国のソーシャルメディアで中国企業に公式宣伝アカウントを開設することを委託しており、青森県を主とする地方の都道府県のアカウントのフォロワー数は130万以上に達していることに気付いた。しかし、栃木県と宇都宮市は関連アカウントを開設していない。もし宇都宮の中国人留学生団体に運営を依頼すれば、観光客の誘致効果がさらに顕著になる。

3.3 観光地としての潜在力と類似都市の比較

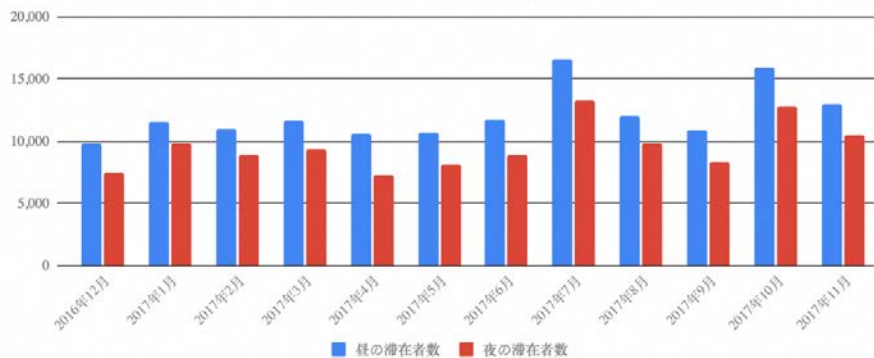
高崎市の滞在者数



出典：RESAS「モバイル空間統計」※2016年12月から2017年11月までのデータを集計

図3 高崎市の滞在者数³⁾

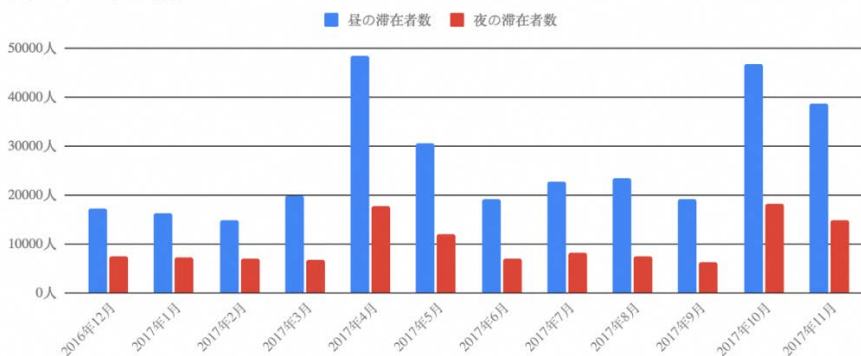
(1位) つくば市の滞在者数



出典：RESAS「モバイル空間統計」※2016年12月から2017年11月までのデータを集計

図4 つくば市の滞在者数⁴⁾

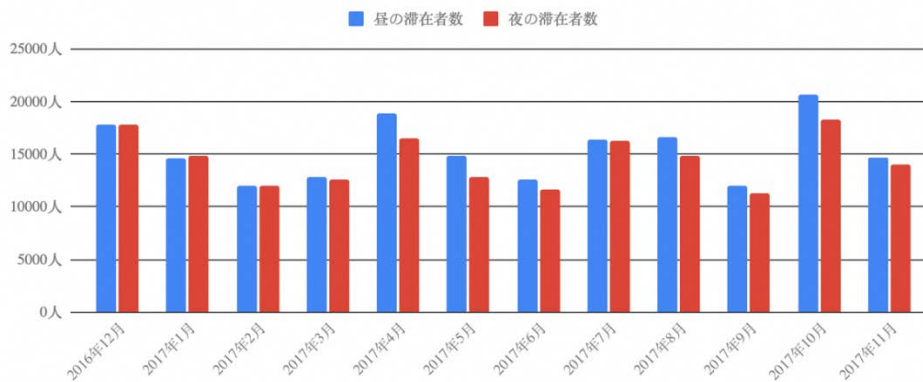
日光市の滞在者数



出典：RESAS「モバイル空間統計」※2016年12月から2017年11月までのデータを集計

図5 日光市の滞在者数⁵⁾

宇都宮市の滞在者数



出典：RESAS「モバイル空間統計」※2016年12月から2017年11月までのデータを集計

図6 宇都宮市の滞在者数⁶⁾

図3によると、高崎市は群馬県内でも最大の人口を誇る都市で、交通利便性が高いため、安定して外国人が訪れている観光地であるということが推察される。滞在者数に月ごとの大きな変化は見られないが、4月にその値はピークを迎えている。群馬県の経済中心として、高崎市は外国人の滞在者数が最も多い都市で、年間の外国人滞在者数は144,186人である。

図4からは、つくば市は日本で有名な研究都市として、多くの留学生を引きつけただけでなく、外国人観光客の訪問数が最も多い茨城県の都市で、年間外国人滞在者数は259,537人であることが分かる。7月と10月において、昼夜共に滞在者数のピークを迎えている。また、年間を通しての滞在者数の変化が、他の市と比較して大きくないのが特徴である

図5によれば、世界遺産に登録されている日光東照宮を代表とする「日光の社寺」や華厳の滝のような多くの観光名所が所在する日光市が栃木県内の市町村の中で外国人滞在者数1位に位置していると分かる。また、図6からは、県庁所在地である宇都宮市が2位に位置していることが分かる。宇都宮市の訪問者数は伝統的な人気観光地である日光に劣っているが、北関東三県の県庁所在地の中で最も人気都市であり、宇都宮市は外国人観光客向けの宣伝活動を展開する潜在力があるといえる。

3.4 宇都宮市と東京都心の交通現状

(1) 鉄道路線(日帰り旅)

JR宇都宮駅から湘南新宿ラインに乗って池袋、新宿など東京都心まで直通で1時間40分程度。新幹線も直通で、東京まで約50分しかかからない。仕事にも短期旅行にも便利である。

(2) 外国人新幹線乗り放題

JRグループ6社は共同して、観光目的で日本を訪れる外国人旅行者に対して、7日間、14日間、21日間、それぞれの期間内であれば、子どもや大人誰でも無制限に乗車する切符を販売している。

3.5 宇都宮市内の既存施設の利用可能性

(1) 駅近くの公共施設、デパートなど。

宇都宮市観光案内所はJR宇都宮駅に位置し、英語、中国語、韓国語、タイ語、ベトナム語の多言語パンフレットが配置されている。しかし、スタッフは外国語を習得していないため、サービスの内容は限られてしまっている。サービスセンターの規模も小さく、機能も単一である。観光客は駅近くの繁華街やショッピングセンターに集まりやすい。もし宇都宮駅の近くに位置する宇都宮共和大学の空き教室や、新設された大型ショッピングセンターのUtsunomiya terraceなどの既存の施設を利用して、これらの場所に総合観光コミュニティサービスセンターを新設すれば、国内外の観光客にサービスを提供し、また、地方コミュニティ事業を推進することもできる。

(2) LRT

来年に完成する次世代の交通手段LRTは宇都宮市内を移動する速度と便利性を大幅に向上させ、現地住民へのメリットは言うまでもなく、観光客への吸引力も大幅に向上した。

4. 施策事業の提案

4.1 外国人観光客と日本人学生の交流事業—MUFIS

(1) 交流内容

前章で述べたように、外国人観光客における日本旅行のニーズとして、日本人と交流したいという声が一定数あるということがわかった。そこで、留学生、日本人学生、外国人観光客がお互いに気軽に交流することができるシステムを提案する。これを MUFIS (Mix with Utsunomiya Foreign tourist and International student and Japanese student) と名付けた。我々は、人とのつながりこそ重要な観光資源であると捉えた。まず、外国人観光客の、日本人と交流したいというニーズを満たすために、外国人観光客のほとんどが利用する JR 宇都宮駅からわずか徒歩 10 分程の距離にある宇都宮共和大学の空き教室やフリースペースなどを活用して、宇都宮市の観光に関する情報や、宇都宮に住む学生のおすすめスポットなどの情報を提供し、外国人観光客の宇都宮観光を充実させるとともに、日本人との交流というニーズも満たすことができる。

しかし、すべての日本人が外国語に長けているわけではない。そこで、宇都宮市内各大学に所属する留学生の豊富な語学力を生かし、外国人観光客と日本人学生の通訳のような役割を果たしてもらおう。そうすることで、双方の架け橋となるとともに、母国語が伝わる人がいるという部分で安心感を持ってもらうことにつながり、円滑な観光支援を行うことができると考える。

この交流の内容を観光情報の提供や学生のおすすめスポット紹介とした理由は、本提案の一番の目的が現地の日本人とつながるということだからである。具体的な体験活動を通して行われる交流活動も良いものではあると思うが、拡がりに欠けると感じる。そのため、今回提案するような会話がメインとなる交流活動を通して、観光雑誌やインターネットの情報では得ることのできない、宇都宮市で暮らす学生が感じる宇都宮の魅力を会話のなかで直接伝えることができれば、本提案の意義がそこに見いだせるのではないかと考える。このように、日本人との「つながり」の体験のなかで満足感を得ることができれば、日本観光の目的地として宇都宮市を感じるだけでなく、より宇都宮市に愛着を持ってもらい、リピーターの形成にもつながる。もちろん、この活動が軌道に乗り、リピーターが増えた場合には、具体的な体験活動等を通しての交流を行うことも視野に入れている。また、外国人観光客と大学生という関わりだけでなく、ゆくゆくは一般の宇都宮市民と外国人観光客との交流の拠点としても活用したい。

(2) 交流活動の仕組み

この交流事業に参加する学生は、ボランティアとする。参加する日本人学生側のメリットとしては、実際の場面で外国語を使用することによる語学力の向上と、観光情報やおすすめスポットに関する情報の提供を通して自身の宇都宮市に関する理解を深められることの 2 点が考えられる。また、観光客と外国語に不安を抱える日本人学生の架け橋として活躍する留学生にとってのメリットとしては、活動に参加する日本人学生とのつながりを持つことができるという点を挙げる。

実際の参加へのプロセスとしては、まず、本提案の事業に参加する意思のある学生を宇都宮市内の各大学で募集し、名簿に登録する。各学生は、参加可能な日時をシステム上に入力し、外国語に自信のある日本人学生の場合は最低 1 名から、外国語に不安を抱える日本人学生の場合は留学生と合わせて最低 2 名の学生が揃った時間帯で利用可能な状態とする。利用する外国人観光客側は、利用可能な時間帯の中で予約を行う。

4.2 既存施設の活用（観光案内所と交流の拠点としての役割）

観光客と地域住民の交流の拠点としての既存施設の利用を提案する。今回の提案の対象とする既存施設は、JR 宇都宮駅近くの宇都宮共和大学の空き教室と、JR 宇都宮駅東口に新設された Utsunomiya Terrace の 2 カ所である。コミュニティ活動の拠点として、国内外の観光客向けの総

合サービスセンターを設置し、観光における外国語支援を提供するだけでなく、宇都宮市の地域住民と外国人観光客の交流活動の拠点ともなるように整備する。今回の提案にあたって、JR 宇都宮駅構内にある宇都宮市観光案内所を訪れたが、規模が小さく、またサービスの内容も限られており、観光客に対する訴求効果は高くないのではないかと感じた。現状の観光案内所では、目的地までの交通手段等ある特定の情報収集のために訪れる観光客には対応できても、外国人観光客が持つ「日本人と交流したい」というニーズを満たすようなサービスを提供することはできていないと感じた。そこで、外国人観光客の窓口となっている宇都宮駅の近くの既存施設 2 カ所を活用して、観光客向けの総合サービスセンターとし、また、外国人観光客と宇都宮市民の交流の拠点としても活用することを提案する。

4.3 留学生が宇都宮の魅力を理解することによる効果

現在、宇都宮市内の留学生の、栃木県や宇都宮市に対する理解は不十分である。市内の留学生の多くは、東京、京都、札幌などの都市を観光の目的地とすることが多い。宇都宮市に住む外国人である留学生に栃木県や宇都宮市などの地域の魅力を知ってもらうことで、より多くの留学生が外国人に宇都宮を宣伝することができると思う。そこで、留学生が宇都宮の魅力を発見するために、留学生向けの地域紹介と宣伝活動を展開していくことを提案する。この既存施設におけるさまざまな交流活動を通して留学生が宇都宮の魅力を感じることができれば、彼らの日本に住む友人や本国に住む知り合いなどに、宇都宮を日本観光の目的地として設定することを勧めることができると思う。

4.4 外国の SNS における観光情報の発信の効果

また、中国の SNS (weibo) において、日本の各観光地のアカウントは多くのフォロワーを抱えており、人気があるといえる。例えば、栃木県と同じ北関東の群馬県や茨城県はアカウントを運営していて、さまざまな観光情報を美しい写真とともに発信している。その中に栃木県の観光情報を発信するものは調査した限り見当たらなかった。今や、SNS を用いた観光情報の発信は観光客の引き寄せにあたって必要不可欠である。そこで、上記の取組を通して宇都宮の魅力を実感した留学生が、本国の SNS でその魅力を発信すれば、有効な観光振興となり得るのではないかと考えた。実際に現地で暮らす留学生による観光情報の発信は、他の観光雑誌やネット上の記事とは違った情報を伝えることができ、その点において他との差別化を図り、観光振興のアピールとして意味のあるものになるだろう。

【参考文献】

- 1) 出身国別留学生数, 宇都宮大学国際交流センターより. (2022年4月1日現在)
- 2) 2021 (令和 3) 年度外国人留学生在籍状況調査結果, 独立行政法人日本学生支援機構, www.studyinjapan.go.jp/ja/statistics/zaiseki/data/2021.html, 2022年. (2022年11月10日閲覧)
- 3) 群馬県に訪れる訪日外国人の特徴, inbound insight, [inbound insight インバウンド対策総合支援サービス \(nightley.jp\)](http://inboundinsight.jp/inboundinsight-群馬県に訪れる訪日外国人の特徴), 2019年. (2022年11月11日閲覧)
- 4) 茨城県に訪れる訪日外国人の特徴, inbound insight, [inbound insight インバウンド対策総合支援サービス \(nightley.jp\)](http://inboundinsight.jp/inboundinsight-茨城県に訪れる訪日外国人の特徴), 2019年. (2022年11月11日閲覧)
- 5) 栃木県に訪れる訪日外国人の特徴, inbound insight, [inbound insight インバウンド対策総合支援サービス \(nightley.jp\)](http://inboundinsight.jp/inboundinsight-栃木県に訪れる訪日外国人の特徴), 2019年. (2022年11月11日閲覧)
- 6) 上に同じ
- 7) JAPAN RAIL PASS, [JAPAN RAIL PASS | ジャパン・レール・パス](http://japanrailpass.jp/), (2022年11月11日閲覧)